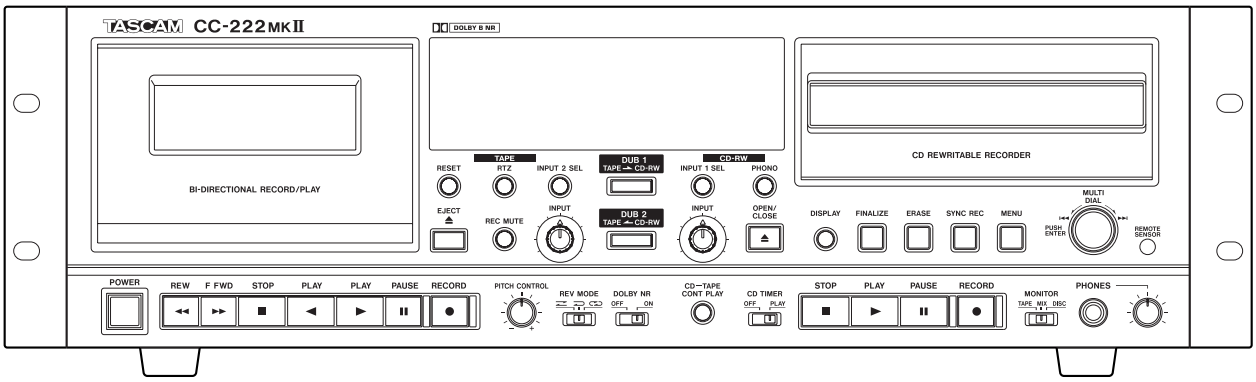
D00822400A

TASCAM
TEAC Professional Division

CC-222MKⅡ

CD Recorder/Cassette Deck

取扱説明書



安全にお使いいただくために

この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⚠	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。

万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

安全にお使いいただくために

⚠警告

万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

この機器を設置する場合は、壁から20 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2 cm以上、背面から10 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

⚠注意

オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。

電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ディスクトレイが閉まるときに手指をはさまれないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

2年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。なお、掃除費用についてはご相談ください。

次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。

・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
・湿気やほこりの多い場所
・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所

電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行なってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。

はじめに

このたびは、TASCAM CC-222MKIIをお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱い方法をご理解いただいた上で、十分に機能を発揮させ末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

本機について

CC-222MKIIはCDレコーダーとカセットテープレコーダーを搭載し、デジタルのコンパクトディスクとアナログのカセットテープ間の相互ダビングを手軽に行なうことができます。

また外部のアナログおよびデジタル機器を接続することができますので、外部ソースの録音も可能です。

さらにアナログレコードプレーヤー接続用のフォノ入力も装備していますので、レコードからCD-Rディスクやカセットテープへのダビングも簡単にできます。

カセットレコーダー部はTASCAM伝統の技術を生かした高性能／高音質設計で、ドルビーノイズリダクションシステムを搭載しています。

CDレコーダー部には24ビットのA/DおよびD/Aコンバーターを搭載し、さらにサンプリングレートコンバーターを内蔵していますので、44.1kHzだけでなく、32kHz／48kHzのサンプリングレートのデジタルソースもCDに録音することができます。

ディスクのトラックの番号付けは手動と自動の両方で可能です。自動の場合、本機が無信号入力を検出して番号をインクリメントします。

必要に応じて、設定した時間によるフェードイン／フェードアウトをワンタッチで行なうことができます。

パラメータ設定には多機能のマルチダイアルを使用します。

ワイヤレスリモコンは遠隔操作を可能にするだけでなく、追加機能を備えています。

目次

はじめに **4**
- 構成 5
- 取扱説明書の表記 5
- 設置上のご注意 5
- 結露について 5
- コピーIDについて 5
- ディスク使用上のご注意 5
- CD-RとCD-RW 6
- カセットテープについて 6
- リモコンについて 7
- ラックマウントについて 7
- アフターサービス 7

各部の名称と働き **8**
- フロントパネル 9
- リアパネル 10
- リモコン 11

メニュー **12**

CDの再生 **13**
- 基本的な再生 13
- サーチ 13
- 時間表示 14
- 再生モードについて 14
- ランダム再生モード 14
- プログラム再生モード 14
- リピート再生モード 15
- イントロチェック 16
- CDとテープの連続再生 16
- オートスペース 16
- タイマー再生 16

CD-R/RWの録音 **17**
- 録音の前に 17
- 入力信号の選択 17
- 入力信号の調整 17
- 入力信号のモニター 18
- オートサンプリングレートコンバーター 18
- 基本的な録音 18
- ファイナライズ 19
- 表示モード 19
- アナログレコードをCDにダビング 20
- サウンドレベルの設定 20
- シンク録音 21
- オートトラック 22
- レックミュート 24
- フェードイン／アウト 24
- 消去 25

カセットの録音／再生 **26**
- 基本的な再生 26
- 基本的な録音 26
- アナログレコードをテープにダビング 27
- その他の機能 28

ダビング **29**
- テープをCDにダビング 29
- CDをテープにダビング 30
- ダビング時にINPUTつまみを無効にする 31

メッセージ一覧 **32**
- エラーメッセージ 32
- 動作時のメッセージ 32
- トラブルシューティング 32

仕様 **33**

構成

本製品の構成は以下の通りです。

- RC-222 リモートコントロールユニット（× 1）
- リモートコントロールユニット用単三電池（× 2）
- ラックマウントビスキット（ビス４本、ワッシャー４本）

取扱説明書の表記

この取扱説明書では以下のようなルールで表記します。

- XXX　：選択可能な値を表します。
  例： A_TRACK> XXX（ON/OFF を選択可能）
- [　]：ディスプレイのインジケーターを表します。
  例：［SHUFFLE］
- "　 "　：ディスプレイに表示する文字を表します。
  例：“OPEN”

設置上のご注意

- 本機の動作保証温度は５度～35 度です。
- 本機は水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。
- 本棚など通気の悪い場所には置かないでください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。本機は結露センサーを装備していますので、結露するとすべての操作を受け付けなくなります。
結露したときは、電源を入れたまま約１～２時間放置した後、一度電源を切り、再び電源を入れてお使いください。

コピー ID（コピービット）について

本機で録音したディスクのコピー ID は"フリー"になります。

ご注意

音楽、映像、コンピュータプログラム、データベース等の著作物は、著作権法その他の法規、または、お客様との間で締結される使用許諾契約に基づき、その複製や使用について制限されることがあります。複製等をされる前に、著作物毎の条件を充分ご確認の上、本装置を適正にご使用くださいますようお願いいたします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担いたしません。

ディスク使用上のご注意

- 以下のマークがあるコンパクトディスクをお使いください。

CD-R

CD-RW

- ディスクは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。
- 信号録音面(レーベルがない面)には触れないでください。指紋や脂などが付着していると、録音するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。
  ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。
- レーベル面に印字するタイプのディスク(プリンタブル)は使用しないでください。表面が特殊加工されているため、本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因になることがあります。
- ディスクにはラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタル CD のシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販の CD 用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や八角形など特殊形状の CD は、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。
- CD-R や CD-RW ディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、ディスクメーカーに直接お問い合わせください。

CD-R と CD-RW

CD-R ディスクには、一度だけしか録音できません。録音したトラック（曲）を消去することもできません。ただし、ディスクの録音可能時間が残っている場合は、追加録音することができます。録音が終わったCD-R をファイナライズすると、一般のCD プレーヤーでも再生できるようになります(一部のCD プレーヤーでは再生できないことがあります)。

CD-RW ディスクは、録音可能時間がいっぱいになっても、録音した曲を消去すれば繰り返し使用することができます。ただし消去できるのは、指定した曲から最後に録音した曲までです。途中の曲だけを消去することはできません。CD-RW は、CD-RW に対応したCD プレーヤーでしか再生できません。

ファイナライズとは

音声データをCD-R やCD-RW ディスクに録音しても、最終的なTOC（Table of Contents ＝録音したデータの情報）をディスクに記録しなければ、一般のCD プレーヤーで再生することはできません。TOC を記録することをファイナライズといいます。ファイナライズしたディスクには、録音することができません。ただしCD-RW の場合は、アンファイナライズすれば再び録音することができます。（19ページ）

録音できないディスク

8cm（シングル)、名刺型など、12cm 以外のディスクには録音できません。

CD-R ディスクについて

本機は 1 倍速での記録に最適化してあります。データ用CD-R は高速記録用に最適化してあるものが多く、ディスクによっては正常に録音できないことがあります。

CD-RW ディスクについて

本機で使用できるのは 1-4 倍対応ディスクのみです。AUDIO 用CD-RW は一般的に対応記録スピードが記載されていませんが、ほとんどが 1-4 倍対応です。High speed, Ultra Speed, Ultra Speed+ など、より高速のCD-RW は再生も録音もできません。

OPC について

初めて使用するCD-R/CD-RW ディスクをセットすると"Now OPC"と表示されます。OPC とは録音のためにレーザーパワーを最適に調整することです。初回使用時だけでなく、ディスクの状態や、周囲の環境条件により再び自動的にOPC を行なうことがあります。

カセットテープについて

使用テープ

録音可能テープ： タイプI （ノーマル）
タイプII （ハイポジション／クローム）

再生可能テープ： タイプI （ノーマル）
タイプII （ハイポジション／クローム）
タイプIV（メタル）

録音防止用つめ

誤って録音内容を消してしまうミスを防ぐために、録音防止用のつめがあります。つめはカセットのA(1)面、B(2)面用にそれぞれあります。ドライバーの先などで折って取り除くと、録音防止装置が働いて録音ができません。
再度、録音をしたいときは、セロハンテープを貼ってつめ穴をふさいでください。

テープの「たるみ」

ご使用の前に、カセットのテープがたるんでいないか確かめてください。テープがキャプスタンなどに巻き込まれることがあります。鉛筆などでたるみを巻取ってください。

テープの自動検出孔について

カセットにはテープ自動検出孔がついています。本機では、テープの種類を自動検出します。

お勧めできないカセットテープ

次のようなカセットテープを使用すると、正常な動作や性能が得られないことがあります。またテープが巻込まれて思わぬトラブルを起こすこともありますので、ご注意ください。

- 形状精度の悪いカセットテープ
  カセットが変形していたり、テープの走行が不安定なもの、早送り、巻戻し中に異音を生ずるカセット。
- 長時間テープ
  90 分を越えるテープは、大変薄くて伸びやすいため、ワウ・フラッターの原因ともなります。また、テープが機械に巻き込まれることがありますので、ご注意ください。

取扱い上のご注意

- カセットを開けたり、テープを引出したりしないでください。
- テープの磁性体コーティング面に直接手を触れないでください。
- ゴミやホコリの多い場所に放置しないでください。
- 高温・多湿の場所での使用、保管は避けてください。
- 強磁場での使用、保管は避けてください。雑音が入ったり、録音内容が消えてしまうことがあります。

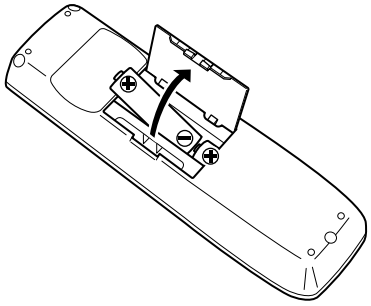
リモコンについて

ご使用上のご注意

- リモコンは本体右端のREMOTE SENSORに向けて操作してください。
- 長い間(一ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐために電池を取り出してください。もし液もれを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 赤外線によりコントロールする他の機器を使用時に、本機のリモコンを操作すると、その機器を誤操作させることがあります。

電池の入れ方

1. 裏側のふたを開ける。
2. ⊕、⊖の向きに注意して、単３電池を２本はめ込む。
3. ふたを閉める。



電池の交換時期は…

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、２本とも新しい電池に交換してください。

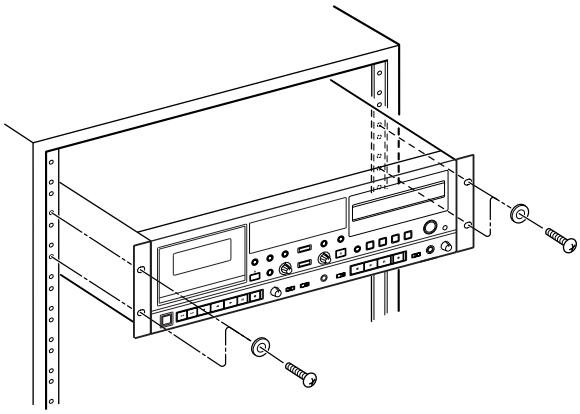
電池についてのご注意

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。

1. 乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースの指示どおりに正しく入れてください。
2. 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
3. 乾電池には、同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
4. 乾電池は絶対に充電しないでください。

ラックマウントについて

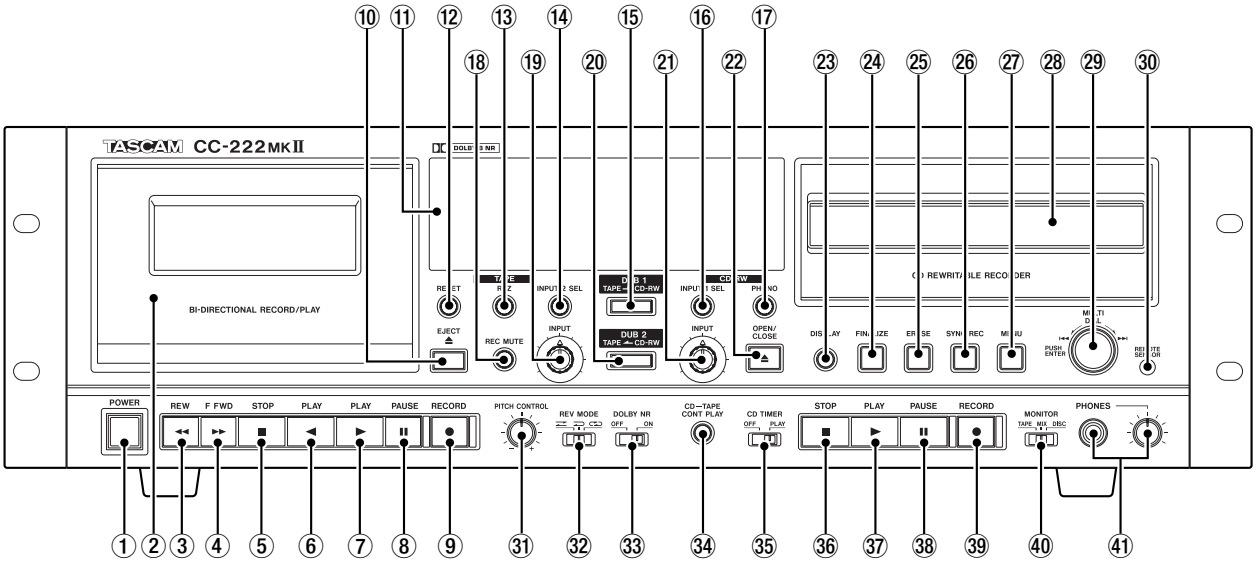
- ラックにマウントする場合は、付属のラックマウント用ビスを使って下図のように、取り付けてください。
  なお、本機の上に1U以上のスペースを、後ろに10cm以上のスペースを開けてください。



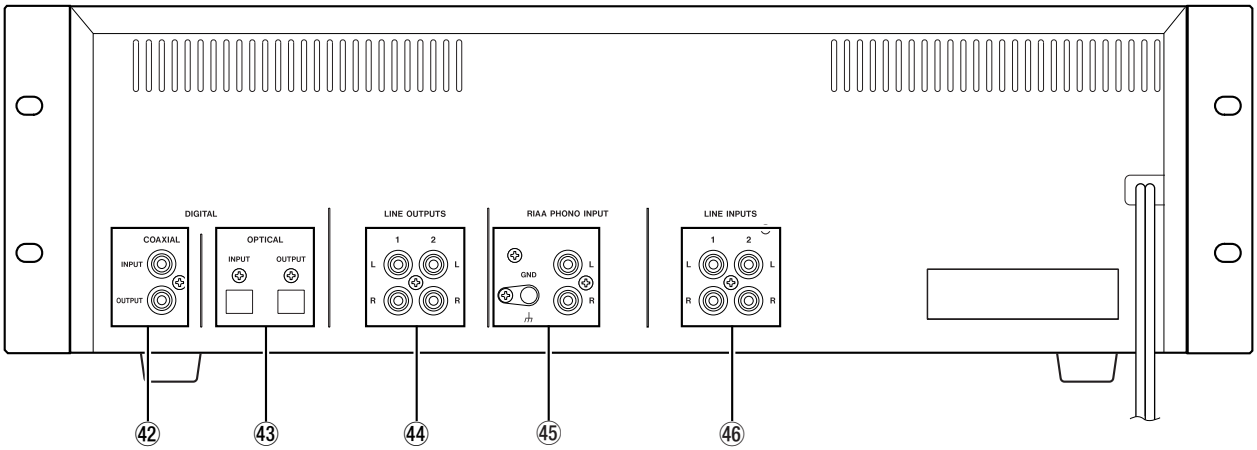
アフターサービス

- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、記載内容をご確認の上、取扱説明書などと一緒に大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日より１ 年です。保証期間中は記載内容により当社サービス機関が修理いたします。
  ただし、保証期間内であっても、使用1,000 時間を超えた合は有償になります。その他の詳細につきましては保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店または当社営業所などにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認の上ご連絡ください。
  - 型名、型番（TASCAM CC-222MKII）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は製造打ち切り後５年です。

フロントパネル



リアパネル



フロントパネル

① POWERスイッチ
電源をオン／オフします。

② カセットホルダー
カセットテープを挿入します。テープ側を下にして挿入してください。
EJECTキーを押すとホルダーが開きます。閉じるときは手で軽く押します。

③ REWキー
カセットテープを巻き戻します。再生中にこのキーを押すと、逆方向のサーチを行ないます。

④ FFWDキー
カセットテープを早送りします。再生中にこのキーを押すと、正方向のサーチを行ないます。

⑤ STOPキー（カセットレコーダー側）
カセットテープを停止します。

⑥ PLAY（◄）キー（カセットレコーダー側）
カセットテープをリバース方向に再生します。
録音待機／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

⑦ PLAY（►）キー（カセットレコーダー側）
カセットテープをフォワード方向に再生します。
録音待機／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

⑧ PAUSEキー（カセットレコーダー側）
再生や録音を一時停止します。
録音待機／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

⑨ RECORDキー（カセットレコーダー側）
録音待機中に押すと録音が始まります。停止時に押すと録音待機状態になります。

⑩ EJECTキー
カセットホルダーを開きます。

⑪ ディスプレイ
トランスポート状態、選択中の入力ソース、録音／再生信号レベル、メニューなどを表示します。

⑫ RESETキー
テープカウンターをゼロにします。

⑬ RTZキー
テープをカウンターゼロポイントにロケートします。

⑭ INPUT 2 SELキー
カセットレコーダーの入力ソース（LINE2またはDISC）を選択します。

⑮ DUB 1 TAPE ➡ CD-RWキー
このキーを押すとカセットテープからCD-R/CD-RWディスクへの自動ダビングが始まります。[→ 29ページ「テープをCDにダビング」]

⑯ INPUT 1 SELキー
CDレコーダーの入力ソース（LINE1、TAPE、PHONO、OPTICAL、またはCOAXIAL）を選択します。

⑰ PHONOキー
PHONO端子に入力されるレコードプレーヤーの再生信号をCDやテープに録音することができます。メニューを使ってCDとテープのどちらに録音するかを選択します。
[→ 20ページ「アナログレコードをCDにダビング」]
[→ 27ページ「アナログレコードをテープにダビング」]

⑱ REC MUTEキー
カセットテープ録音中にこのキーを押すと、約４秒間の無信号録音を行なった後に停止します。

⑲ INPUTつまみ（カセットレコーダー側）
カセットレコーダーの入力レベルを調整します。メニューのDUB>VOL項目をTHRUに設定しておくと、ディスクからの自動ダビング時にこのつまみが働きません。

⑳ DUB 2 TAPE ⬅ CD-RWキー
このキーを押すとディスクからカセットテープへの自動ダビングが始まります。[→ 30ページ「CDをテープにダビング」]

㉑ INPUTつまみ（CD側）
CDレコーダーの入力レベルを調整します。メニューのDUB>VOL項目をTHRUに設定しておくと、テープからの自動ダビング時にこのつまみが働きません。

㉒ OPEN/CLOSEキー
ディスクトレイを開閉します。

㉓ DISPLAYキー
ディスプレイに表示するディスクの時間モードを切り換えます。

㉔ FINALIZEキー
ディスクをファイナライズするときに使います。

㉕ ERASEキー
CD-RWディスクのデータを消去するときに使います。

㉖ SYNC REC キー
シンク録音モードをオン／オフします。

㉗ MENUキー
メニューを表示します。

㉘ ディスクトレイ
ディスク（CD, CD-R, CD-RW）を入れます。

㉙ MULTI DIAL （マルチダイアル）

ディスク停止中、メニュー操作の際にこのダイアルを回して選択肢を選びます。また操作の確認表示がディスプレイに現れた場合、このダイアルを押すと「実行」します。
ディスク再生中、トラックサーチを行ないます。
ディスク録音中、録音トラック数の表示、指定を行ないます。

㉚ REMOTE SENSORウィンドウ

リモコンからの赤外線信号を受信します。リモコン使用時は、このウィンドウに向けて操作してください。またこのウィンドウはブロックしないようご注意ください。

㉛ PITCH CONTROLつまみ

テープスピードを± 12%の範囲で調整することができます。

㉜ REV MODEスイッチ

テープ走行モードを、片方向（）、両方向（）、連続（）（再生のみ）、の中から選択します。録音と再生の両方に働きます。

㉝ DOLBY NR（OFF/ON）スイッチ

カセット録音／再生時のドルビーＢノイズリダクションのオン／オフを選択します。

㉞ CD-TAPE CONT PLAYキー

ディスクとテープの連続再生モードのオン／オフを行ないます。

㉟ CD TIMER（OFF/PLAY）スイッチ

CDタイマーの設定を行ないます。PLAY側に設定しておくと、ディスクをセットした状態で本機の電源を入れたときにCDが自動的に再生を始めます。

㊱ STOPキー（CD側）

録音や再生を停止します。

㊲ PLAYキー（CD側）

再生を開始します。録音待機モードのときにこのキーを押すと録音を開始します。

㊳ PAUSEキー（CD側）

録音や再生を一時停止します。
録音待機／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

㊴ RECORDキー

録音待機モードにします。
手動録音時に押すと、トラックをインクリメントします。

㊵ MONITOR（TAPE/MIX/DISC）スイッチ

ヘッドホン出力のソースを選択します。カセットレコーダー、CDレコーダーまたは両方のミックスの中から選択できます。

㊶ PHONES 端子／つまみ

ステレオヘッドホンを接続します（6 Φ標準ジャック）。
右側のつまみでヘッドホンの音量を調整します。

リアパネル

㊷ DIGITAL COAXIAL（INPUT/OUTPUT）端子

㊸ DIGITAL OPTICAL（INPUT/OUTPUT）端子

それぞれIEC60958 Type II（S/PDIF）のデジタル入力／出力端子です。入力信号はCDレコーダーのソースになることができます。また出力端子からはCDレコーダーの再生信号が出力されます。

入力段にサンプリングレートコンバーターを内蔵していますので、入力端子からはサンプリングレート32 kHz／44.1 kHz／48 kHzのデジタル信号を入力することができます。

㊹ LINE OUTPUTS L/R（1, 2）端子

1からはCDレコーダーの再生信号、2からはカセットレコーダーの再生信号またはCDレコーダーの再生信号（カセットレコーダーの再生信号が優先）がアナログ出力されます。
アンプなどの機器と接続します。

㊺ PHONO INPUT（L, R）端子／GND端子

アナログレコードプレーヤーを接続します。入力信号の送り先（CDレコーダーまたはカセットレコーダー）はメニューで選択します。
GND端子にはレコードプレーヤーのアース線を接続します。

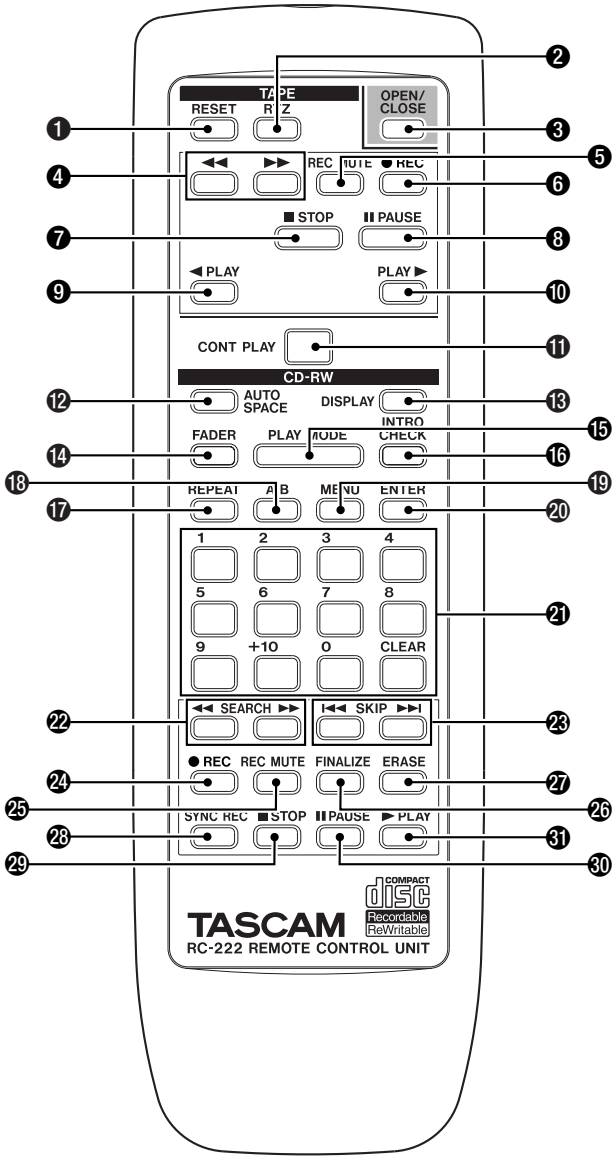
メモ

レコードプレーヤーをLINE INPUTS端子に接続しないでください。またライン出力の機器をPHONO INPUT端子に接続しないでください。

㊻ LINE INPUTS L/R（1, 2）端子

1にはCDレコーダーのアナログ入力ソース、2にはテープレコーダーのアナログ入力ソースを接続します。

RC-222（リモコン）



❶ RESETキー
テープカウンターをゼロにします。

❷ RTZキー
テープをカウンターゼロポイントにロケートします。

❸ OPEN/CLOSEキー
ディスクトレイを開閉します。

❹ ◀◀キー／▶▶キー
カセットテープを巻戻し／早送りします。再生中にこれらのキーを押すと、サーチを行ないます。

❺ REC MUTEキー
カセットテープ録音中にこのキーを押すと、約４秒間の無信号録音を行なった後に停止します。

❻ RECキー
録音待機中に押すとカセットの録音が始まります。停止時に押すと録音待機状態になります。

❼ STOPキー
カセットテープを停止します。

❽ PAUSEキー
カセットテープの再生や録音を一時停止します。
録音待機／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

❾ PLAY（◀）キー
カセットテープをリバース方向に再生します。

❿ PLAY（▶）キー
カセットテープをフォワード方向に再生します。

⓫ CONT PLAYキー
ディスクとテープの連続再生モードのオン／オフを行ないます。本体のCD-TAPE CONT PLAYキーと同じ働きをします。

⓬ AUTO SPACEキー
ディスクトラック再生時に、自動的にトラック間に約４秒の無音スペースを入れます。

⓭ DISPLAYキー
ディスプレイに表示するディスクの時間モードを切り換えます。

⓮ FADERキー
CDに録音をするとき、自動的にフェードイン／アウトを行ないます。フェードタイムはメニューで設定できます。

⓯ PLAY MODEキー
CDの再生モードを、通常の再生、１曲再生（シングル）、プログラム再生、ランダム再生の中から選択します。

⓰ INTRO CHECKキー
CDの各トラックの冒頭を10秒ずつ再生します。

⓱ REPEATキー
CDのリピートモード（シングルトラックリピート、オールリピート）の選択を行ないます。

⓲ A-Bキー
A-Bリピート区間の始点と終点を設定します。
A-Bリピート中に押すと、A-Bリピートモードを解除します。

⓳ MENUキー
メニューを表示します。

⓴ ENTERキー
操作の確認がディスプレイに表示された場合、このダイアルを押すと「実行」します（本体のMULTI DIALを押したときと同じ働きをします）。

㉑ テンキー（0～10、＋10、CLEAR）
ディスク再生時のトラック番号入力に使います。

㉒ SEARCHキー
CDのサーチ（早戻し／早送り）を行ないます。

㉓ SKIPキー
メニューの選択肢を選んだり、CDトラックのスキップを行ないます（本体のMULTI DIALを回したときと同じ働きをします）。

㉔ RECキー
録音待機モードにします。
手動録音中に押すと、トラックをインクリメントします。

㉕ REC MUTEキー
CD録音中にこのキーを押すと、約４秒間の無信号録音を行なった後に停止します。

㉖ FINALIZEキー
ディスクをファイナライズするときに使います。

㉗ ERASEキー
CD-RWディスクのデータを消去するときに使います。

㉘ SYNC REC キー
シンク録音モードをオン／オフします。

㉙ STOPキー
録音や再生を停止します。

㉚ PAUSEキー
録音や再生を一時停止します。
録音待機／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

㉛ PLAYキー
再生を開始します。録音待機中にこのキーを押すと録音を開始します。

メニュー

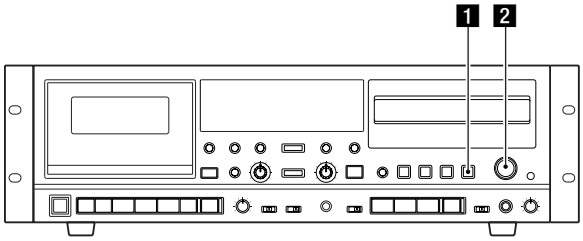
本機はメニューシステムを使って各種初期設定を行ないます。

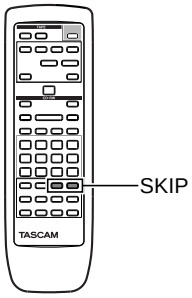
本機のメニューと初期設定は以下の通りです。

表示	意味	初期設定	参照ページ
A_TRACK	オートトラックインクリメント	ON	→ 22ページ
S-LVL	サウンドレベル	−54dB	→ 23ページ
FADE IN	フェードインタイム	3s	→ 24ページ
FADE OUT	フェードアウトタイム	3s	→ 24ページ
DUB>VOL	ダビング時のボリュームコントロール	THRU	→ 31ページ
PHONO	PHONO入力の録音先	DISC	→ 20、27ページ
VOLUME	デジタルボリューム	0dB	→ 17ページ

● メニューの設定値およびINPUT 1/2 SELの設定は、バックアップされます。

メニューへのアクセス





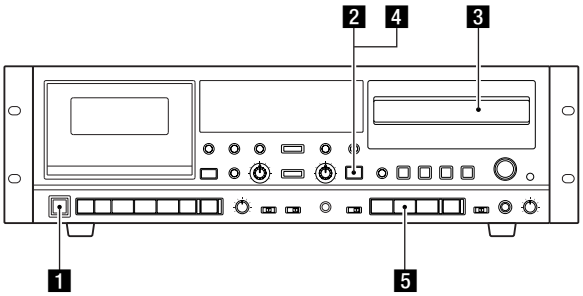
1 MENUキーを押して希望するメニューを表示します。

2 MULTI DIALを回すか、リモコンのSKIPキーを押して、設定値を選択します。

メニューを抜けるときは、MULTI DIALを押すか、リモコンのENTERキーを押します。または、MENUキーを何度か押して通常表示（カウンター表示）に戻します。

基本的な再生

本機のCDレコーダーは、通常の（ファイナライズ済みの）CD、CD-R、CD-RWディスクの他に、ファイナライズしていないディスクも再生することができます（通常のCDプレーヤーではファイナライズ済みのディスクしか再生できません）。



1 POWERキーを押して電源を入れます。

2 OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを開けます。

3 ディスクのレーベル面を上にしてトレイに載せます。

4 OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを閉めます。

- "TOC Reading"を表示した後、ディスクの種類、総トラック数、総再生時間を表示します。
- トラック番号を示すインジケーターがディスプレイの下側に、最大20まで点灯します。ディスクの総トラック数が20以上の場合は［OVER］が点灯します。
  トラックの再生が終了するとインジケータが消えてゆきます。

ディスクの種類は以下のように表示されます。

CD：	市販のCDおよびファイナライズ済のCD-R
CD-R：	CD-R
CD-RW：	CD-RW
NO TOC：	ファイナライズしていないCD-RまたはCD-RW

5 PLAYキーを押して再生を始めます。

再生を止めるには

STOPキーを押します。

再生を一時停止するには

PAUSEキーを押します。
もう一度PLAYキーまたはPAUSEキーを押すと、再び再生が始まります。

ディスクを取り出すには

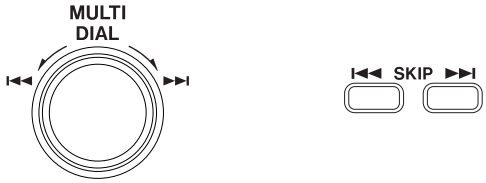
OPEN/CLOSEキーを押します。
再生を停止してディスクトレイが開きます。

- 再生停止中はデジタル信号は出力されません。

サーチ

トラックスキップ

本体のMULTI DIAL ㉙ を右左に回すと、フォワード方向／リバース方向にトラックがスキップします。
リモコンでは、SKIPキー㉘ を使います。



- 停止状態からトラックを選ぶと、スキップ後停止状態になります。
- 再生状態から操作すると、スキップ後再生を再開します。
- プログラムモード再生中は、プログラムした曲の中でスキップを行ないます。
- ディスクの最初のトラックでMULTI DIALを左に回すと、最後のトラックにスキップします。最後のトラックでMULTI DIALを右に回すと、最初のトラックにスキップします。

テンキー

リモコンのテンキーを押すと、ダイレクトにトラックを選択できます。

例

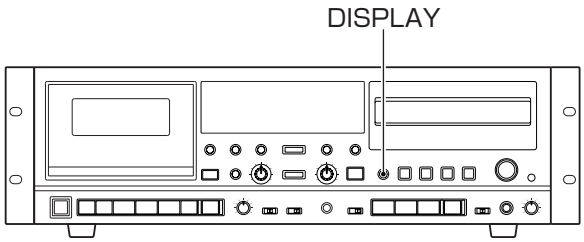
トラック5：　5
トラック15：　+10⇒5
トラック23：　+10⇒+10⇒3

- プログラムモードでは、プログラムの設定にテンキーを使いますのでサーチには使えません。
- ランダム再生モードでは操作できません。
- 存在しないトラックは受け付けません。

サーチ

リモコンのSEARCHキー㉒ を押し続けると、フォワード方向／リバース方向にディスクをサーチします。

時間表示



４種類の時間表示モードがあります。
DISPLAY キーを押して表示モードを切り換えます。

［表示なし］： 現在のトラックの経過時間を表示します。

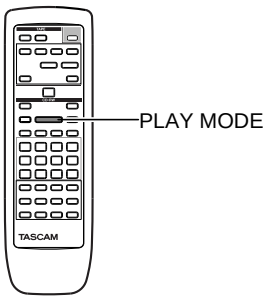
［REMAIN］： 現在のトラックの残り時間を表示します。

［TOTAL］： ディスクの経過時間を表示します。

［TOTAL REMAIN］：ディスクの残り時間を表示します。

- プログラムモードでは、ディスク全体ではなくプログラム全体の経過時間と残り時間を表示します。
- TOTAL 表示では 1 曲目の先頭のブランク領域の時間が加算されますので、再生は 0:00 からは始まりません。ブランク領域の長さはディスクによって異なり、実際には再生しません。

再生モードについて



本機には４つの再生モードがあります。
停止中にリモコンの PLAY MODE キーを押して再生モードを切り換えることができます。

選択中の再生モードがディスプレイに以下のように表示されます。

“CONTINUE”： 通常の再生（ディスクの最後のトラックまでをトラック順に再生）

“SINGLE”： 選択したトラックを再生後に停止

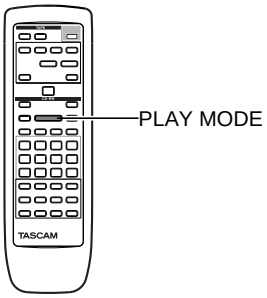
“RANDOM”： ランダムに再生
［ → 14ページ「ランダム再生モード」］

“PROGRAM”： プログラム順に再生
［ → 14ページ「プログラム再生モード」］

- 電源オン時は、CONTINUE（通常の再生）モードになります。

ランダム再生モード

トラック（曲）をランダムに再生します。

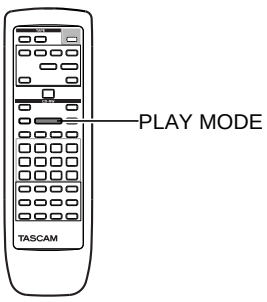


1 リモコンの PLAY MODE キーを押してランダム再生モードにします。［RANDOM］が点灯します。

2 PLAY キーを押すとランダム再生が始まります。

- ランダム再生中に MULTI DIAL を右に 1 回回すと、次のトラックがランダムに選択されます。
- ランダム再生を停止するときは、STOP キーまたは OPEN/CLOSE キーを押します。
- ランダム再生モードのときは総経過時間（TOTAL）と残り再生時間（TOTAL REMAIN）は表示されません。

プログラム再生モード



最大 25 トラック（曲）までプログラムを組んで再生することができます。

- 停止時にプログラムを組めます。
- プログラム再生中はランダム再生はできません。

1 リモコンの PLAY MODE キーを押してプログラム再生モードにします。［PROGRAM］が点灯します。

2 リモコンのテンキーを使ってトラック番号を入力します。

3 PLAY キーを押してプログラム再生を始めます。

- プログラムモードへの切り換えは停止時に行ないます。
  再生中はプログラムモードへ切り換えられません。

- 停止時にプログラムする場合は、MULTI DIALを使うことができます。MULTI DIALを回してトラックを選び、MULTI DIALを押すとプログラムできます。
  なお、再生中はMULTI DIALを回すとトラックをスキップします。
- 26曲以上をプログラムしようとすると、エラーメッセージ"PGM Full!"が表示されます。プログラムできるのは25曲までです。
- プログラムした曲の合計時間が100分以上になると、"--:--"が表示されます。
- 1曲もプログラムしていない状態でプログラム再生すると、プログラムモードを解除して、ディスクの初めから通常の再生が始まります。

プログラムに曲を追加するには

リモコンのテンキーを使って追加したいトラック番号を入力します。プログラムの最後に入力したトラックが追加されます。

プログラムの一部を削除するには

リモコンのCLEARキーを押します。
プログラムの最後のトラックが削除されます。

すべてのプログラムを消去するには

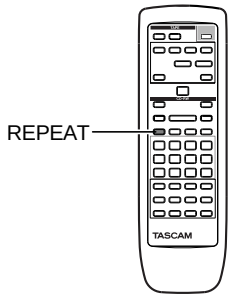
次のいずれかを行ないます。

- リモコンのPLAY MODEキーを押してプログラム再生モード以外のモードに切り換えます。
- OPEN/CLOSEキーを押します。
- 停止時にSTOPキーを押します。
- POWERスイッチを押して電源を切ります。

プログラムした曲をリピート再生するには

プログラムを組んだ後に、REPEATキーを押して全曲リピートモードにします。プログラムした曲がくり返し再生されます。

リピート再生モード



3つのリピートモードがあります。
リモコンのREPEATキーを押して、リピートモードを切り換えます。

[REPEAT] [ALL]：全曲リピート
ディスクのすべてのトラック（曲）をリピート再生します。
プログラムモードでは、プログラムした曲のすべてをリピート再生します。

[REPEAT] [1]：1曲リピート
現在のトラックをリピート再生します。
1曲リピート再生中に他のトラックを選ぶと、選んだトラックのリピート再生に変わります。
停止時、1曲リピートモードに設定してから、トラックを選択して再生すると、選んだトラックのリピート再生になります。

[REPEAT] [A-B]：A-Bリピート
指定した区間をリピート再生します。以下の「A-Bポイントを設定するには」をご参照ください。

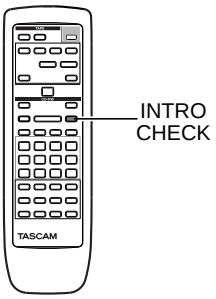
A-Bポイントを設定するには

1. 再生中、リピート再生したい区間の始点（Aポイント）でA-Bキーを押します。
2. リピート再生したい区間の終点（Bポイント）でA-Bキーを押します。

   A-Bポイント間のリピート再生が始まります。

- A-Bリピートモードを解除するには、もう一度A-Bキーを押します。STOPキーを押しても解除できます。
- 再生一時停止中は、リピートモードを解除できません。
- AポイントとBポイントが近すぎるとA-Bリピートができません。
- トラックをまたいでA-Bリピートを行なう場合、トラックの変わり目で一瞬音が途切れることがあります。
- 先に終点（Bポイント）を設定し、その後に始点（Aポイント）を設定することはできません。
- A-Bリピートは再生モードがCONTINUEモードのときに可能です。
- ファイナライズ済みでないCD-RまたはCD-RWではA-Bリピートはできません。

イントロチェック



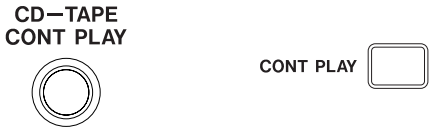
停止中にINTRO CHECKキーを押すと、CDの各トラックの冒頭が10秒ずつ再生されます。

イントロチェックを途中でやめるにはSTOPキーを押します。
イントロチェック中にもう一度INTRO CHECKキーを押すと、通常再生になります。

CDとテープの連続再生

本機にセットしたCDとテープを連続再生することができます。

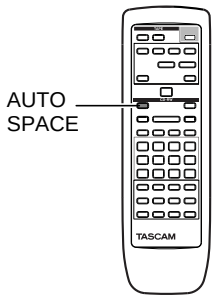
1. テープとCDを装着します。
2. CD-TAPE CONT PLAYキー（リモコンの場合はCONT PLAYキー）を押します。



3. CDレコーダーまたはカセットレコーダーのPLAYキーを押します。

対応するレコーダーが再生を始め、再生を終えると、他方のレコーダーが再生を始めます。

オートスペース



トラック間に約４秒間のスペース(無音部分)を入れることができます。テープにダビング後、トラックの頭出しをするときなどに便利です。

リモコンのAUTO SPACEキーを押します。ディスプレイの[A.SPACE] が点灯します。

オートスペースを解除するには、もう一度AUTO SPACEキーを押します。

- オートスペース実行中（無音部分挿入中）にもう一度AUTO SPACEキーを押すと、再生一時停止状態になります。
- CONTINUE以外の再生モードのときやディスクに汚れがあるときなどは、トラックアクセスに要する時間が長くなりますので、無音部分は４秒より長くなることがあります。

タイマー再生

外部のオーディオタイマーと併用して、希望の時刻にCDを再生することができます。

1. 再生したいCDをセットします。
2. CD TIMERスイッチをPLAYにセットします。
3. 本機の電源スイッチをいったん切ります。
4. 本機の電源プラグをタイマーの電源出力に接続します。
5. タイマーを設定します。
6. 本機の電源スイッチを入れておきます。

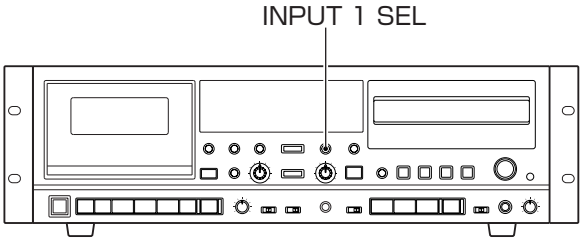
   設定した時刻になり本機に電源が供給されると、CDの再生が始まります。

- タイマーから電源が投入されてもTOC情報の読み込みに時間がかかりますので、再生はすぐには始まりません。
- タイマーの取り扱いについてはタイマーの取扱説明書をお読みください。

録音の前に

- CDの規格により99トラック（曲）までしか録音できません。また、4秒以下の曲は録音できません。
- 録音を始めてから4秒以内にSTOPキーまたはPAUSEキーを押した場合は4秒経ってから停止します。その間は無音録音状態になります。
- 録音の途中で99曲まで達した場合は、“Disc Full”と“PMA Writing”を表示した後、停止します。
- 録音の途中でディスクの録音可能時間が0になった場合は、フェードアウトした後、“Disc Full”と“PMA Writing”を表示して停止します。
- 途中まで録音してあるディスクを入れた場合は、録音済み部分の終わりから続けて録音します。
- ファイナライズ済みのCD-RWにさらに録音したいときは、一度アンファイナライズします。[→ 19ページ「ファイナライズ」]
- シンク録音機能やオートトラック機能を使う場合、本機はサウンドレベルで設定したレベルに従って録音を開始し、曲を区切ります。このため、冒頭や曲間に無音部分があるソースを録音すると、一曲当たりの長さ(再生時間)がソースと一致しないことがあります。

入力信号の選択



INPUT 1 SELキーを押して入力信号（ソース）を選択します。

[OPTICAL]：
DIGITAL OPTICAL INPUTの入力信号。ディスプレイに[OPTICAL]が表示されます。

[COAXIAL]：
DIGITAL COAXIAL INPUTの入力信号。ディスプレイに[COAXIAL]が表示されます。

[LINE]：
LINE INPUTS 1の入力信号。ディスプレイに[LINE 1]が表示されます。

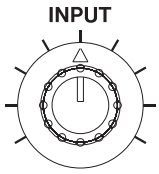
[PHONO]：
PHONOの入力信号。ディスプレイに[PHONO]が表示されます。

[TAPE]：
本機のカセットレコーダーの再生信号。ディスプレイに[TAPE]が表示されます。

- PHONO入力の操作については「アナログレコードをテープにダビング」（27ページ）をご覧ください。
- 入力信号の選択は、録音中、録音一時停止状態、入力信号モニター中にはできません。
- テープを録音する場合、ダビング機能を使うと便利です。その場合の操作については「テープをCDにダビング」（29ページ）をご覧ください。

入力信号の調整

アナログ信号は、CDレコーダー側のINPUTレベルコントロールで調整します。



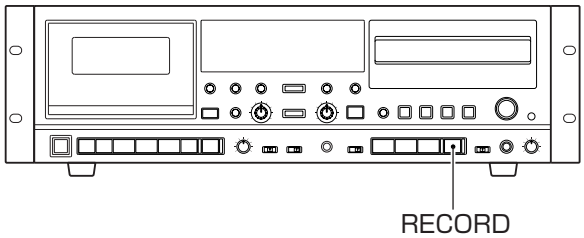
- アナログ信号に対しても以下に説明するデジタルボリュームが有効ですが、通常は0dBに設定してください。

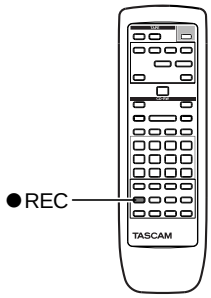
デジタル信号はメニューの“VOLUME”（デジタルボリューム）を使って調整します。

デジタルボリュームを使ったレベル調整

1. RECORDキーを押して録音一時停止状態にします。
2. MENUキーを押して“VOLUME XXXdB”を表示します。
3. MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使って、レベルを調整します。調整範囲は－60dB～＋18dBです。
   “---dB”で信号を完全にカットします。

入力信号のモニター





ディスク未挿入時または録音できないディスクが入っているときでも、CDレコーダー用のRECORDキー（リモコンの場合はRECキー）を押すと、選択中の入力信号がLINE OUTPUTS 1端子から出力されます。（カセットの録音／再生中以外は、LINE OUTPUTS 2端子からも出力されます。）

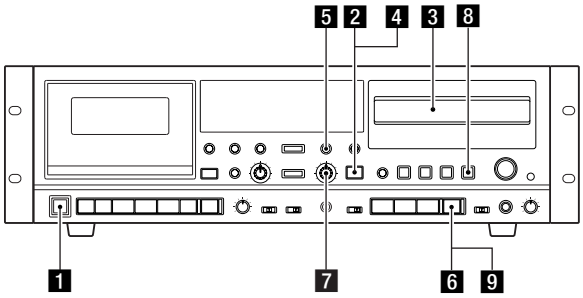
なお、MONITORスイッチをMIXまたはDISCに設定するとPHONES端子からも出力されます。

またディスプレイ上のメーターは入力レベルを表示します。

オートサンプリングレートコンバーター

CDのサンプリングレートは44.1kHzですので、本機は常に44.1kHzで録音します。
デジタル入力に対してはサンプリングレートコンバーターを通して44.1kHzに変換して録音します。が、CDプレーヤーからのデジタル信号を録音するときは、自動的にサンプリングレートコンバーターがOFFになります。

基本的な録音



1 POWERキーを押して電源を入れます。

2 OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを開けます。

3 ディスクのレーベル面を上にしてトレイに載せます。

4 OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを閉めます。

5 INPUT 1 SELキーを押して録音するソースを選びます。

6 トラック番号の付け方を選びます。（22ページ）

7 RECORDキーを押して録音一時停止状態にします。

［REC］と［❚❚］が点灯します。

- デジタルソースを選択した場合、ソース機器の電源が切れていたり接続が正しくないとエラーメッセージ"D-IN UNLOCK!"が表示されます。

8 ソースの入力レベルを調整します。（17ページ）

メーターの［OVER］が点灯しないように調整してください。［OVER］が点灯するとデジタルノイズが発生します。

アナログ録音と異なり、メーターの［0］より上に余裕はありません。

- CDなどを録音する場合は、原則として、メニューのVOLUMEを"0dB"にすることをお勧めします。ソースCDのダイナミックレンジをクリップなく録音できます。
- アナログソースの場合、規定レベルを入力するとメーターの－16を示します。

9 PLAYキーを押して録音を始めます。

録音開始位置を探す必要はありません。自動的に現在の最終曲を検出し、その次から録音を始めます。

- 一般のCDプレーヤーで再生できるようにするにはファイナライズをします。詳しくは「ファイナライズ」（19ページ）をご覧ください。

録音を止めるには

STOPキーを押します。
ディスプレイの［REC］が点滅し“PMA Writing”**を表示してディスクに録音内容を記録します。

録音を一時停止するには

PAUSEキーを押します。
もう一度PLAYキーまたはPAUSEキーを押すと、再び録音が始まります。このとき、トラック番号が新しくなります（1つ繰り上がります）。

ディスクを取り出すには

録音を停止してから、OPEN/CLOSEキーを押します。

ご注意

“PMA Writing”表示中はディスクに録音内容を記録しています。このためキー操作は受け付けません。
“PMA Writing”表示中に本機を揺らしたり電源を切ったりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。

*PMA = Program Memory Area

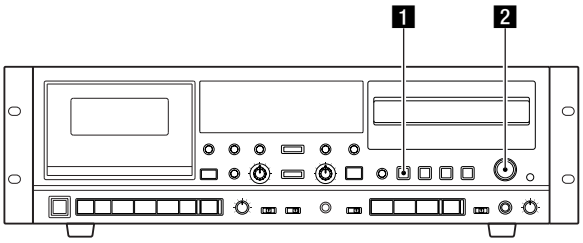
メモ

オーディオCDの規格により、1枚のディスクの最大トラック数は99です。また各トラックの長さは4秒以上でなければなりません。録音開始後、4秒経過する前に録音を停止しようとしても、4秒経過してから停止します。

ファイナライズ

TOCを記録することをファイナライズといいます。
本機で録音したディスクは本機では再生できますが、最終的なTOCをディスクに記録するまで、一般のCDプレーヤーでは再生できません。

ファイナライズしたCDには新たに録音できません。
CD-RWの場合は、アンファイナライズすれば再び録音することができます。



○ ディスクを正しくセットします。

1 停止時にFINALIZEキーを押します。
ディスプレイに“Finalize OK?”を表示します。
中止したいときは、STOPキーを押します。

2 MULTI DIALまたはリモコンのENTERキーを押すと、ファイナライズが始まります。ディスプレイに“TOC X:XX”を表示し［REC］が点滅を始めます。
ファイナライズが終了すると“Complete”を表示します。

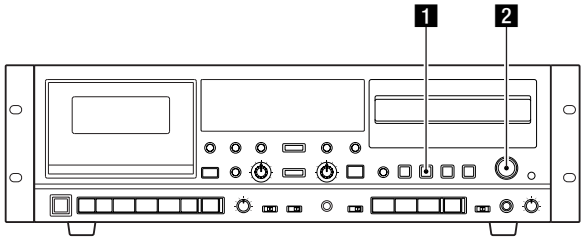
● ファイナライズ中は操作キーを受け付けません。

ご注意

ファイナライズ中に電源を切らないでください。
録音内容が消えるばかりではなく、ディスクが使えなくなる恐れがあります。

アンファイナライズ

アンファイナライズはCD-RWディスクのみ可能です。



○ ファイナライズ済みのディスクを正しくセットします。

1 停止時にERASEキーを押します。
ディスプレイに“Unfinalize OK?”と表示されます。
中止したいときは、STOPキーを押します。

2 MULTI DIALまたはリモコンのENTERキーを押すと、アンファイナライズが始まります。ディスプレイに“ERASE X:XX”を表示し［NO TOC］が点滅を始めます。
アンファイナライズが終了すると“Complete”を表示します。

表示モード

録音および録音一時待機時には2つの表示モードがあります。
DISPLAYキー㉓を押して表示モードを切り換えます。

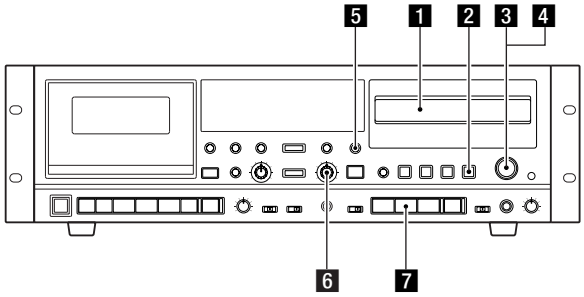
［表示なし］：
現在のトラックの録音済み時間を表示します。

［TOTAL REMAIN］：
ディスクに録音可能な残り時間を表示します。

● 録音開始から4秒間は表示モードを切り換えられません。

アナログレコードを CD にダビング

外部のアナログレコードプレーヤーを本機の PHONO 端子に接続することにより、アナログレコードを CD にダビングすることができます。



1 録音可能なディスクをセットします。

2 MENU キーを押して“PHONO>xxxx”を表示します。
このメニュー項目で、PHONO 入力ソースを CD かカセットのどちらにダビングするかを選択します。

3 MULTI DIAL またはリモコンの SKIP キーを使って、“PHONO>DISC”を選択します。

4 MULTI DIAL またはリモコンの ENTER キーを押します。

5 PHONO キーを押します。
ディスプレイに [INPUT 1] と [PHONO] が点灯し、INPUT 1 の入力が PHONO であることを示します。
CD レコーダーは録音待機状態になります。

6 必要に応じて、CD レコーダー側の INPUT つまみで録音レベルを調節します。

7 レコードを再生すると同時に、CD レコーダーの PLAY キーを押して録音を開始します。

録音を止めるには

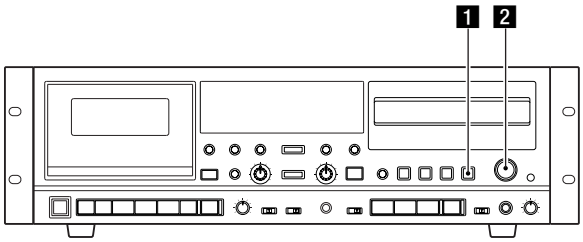
STOP キーを押します。
録音を止めるとディスプレイの PHONO が消灯します。

メモ

- レコードをダビングする場合は、オートトラック（→ 22 ページ）をオフにすることをお勧めします。
  レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、適切にオートトラック機能が働かないことがあります。
- オートトラックをオンにしてレコードダビングを行なう場合、サウンドレベルは自動的に－ 24dB に設定されます。
- PHONO キーを使った録音では、手動でトラックをインクリメントできません。手動でトラックをインクリメントしたい場合は、通常の録音（→ 18 ページ）を行なってください。
- PHONO ソースを録音中は STOP キー以外のキーを受け付けません。
- CD 側への録音のみ、PHONO 入力から手動で行なうことができます。操作方法は INPUT SEL キーで PHONO を選択するほかは、通常の録音方法と同じです。（→ 18 ページ）

サウンドレベルの設定

サウンドレベルの設定に従って、テープから CD へのダビング、シンク録音、オートトラック機能が働きます。



1 MENU キーを押して“S_LVL> XXX”を表示します。

2 MULTI DIAL またはリモコンの SKIP キーを使って、値を選択します。

選択できる値は、
"－ 72dB"、"－ 66dB"、"－ 60dB"、"－ 54dB"、"－ 48dB"、"－ 42dB"、"－ 36dB"、"－ 30dB"、"－ 24dB です。
（－ 72dB、－ 66dB、－ 60dB はデジタル入力時のみ選択可能）

- オートトラックをオンにして DUB 1 を行なう場合、サウンドレベルは自動的に－ 30dB に設定されます。
- オートトラックをオンにしてレコードダビングを行なう場合、サウンドレベルは自動的に－ 24dB に設定されます。

シンク録音

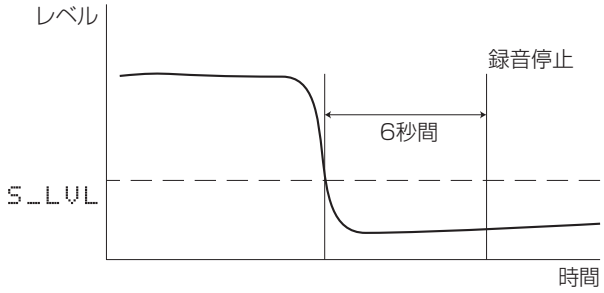
シンク録音とは、ソースの始まりを検出して自動的に録音が始まり、終わりを検出して自動的に録音が終わる録音です。
ソースの始まりや終わりの検出の基準になるサウンドレベルは、メニューを使って設定することができます。[→ 20ページ「サウンドレベルの設定」]

シンク録音には録音の自動停止のしかたにより、つぎの2つのモードがあります。

SYNC ALL
無音状態が6秒続くと停止します。

SYNC 1
1曲目が終わると（2曲目の始まりを検出すると）停止します。または、無音状態が6秒続くと停止します。

無音状態とは、ソースのレベルがメニューのS_LVLで設定したレベルよりも低い状態のことです。

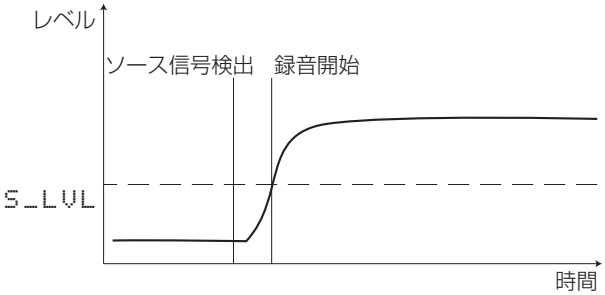


録音開始条件

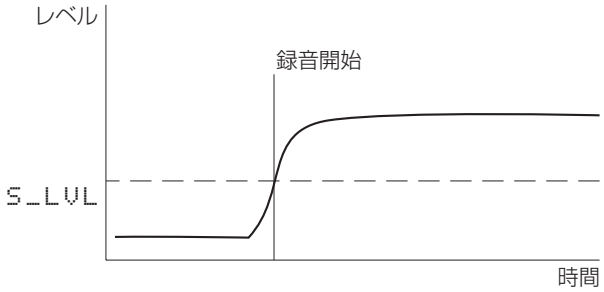
シンク録音を開始する条件はソースにより異なります。

DATの場合
START IDを検出して開始します。

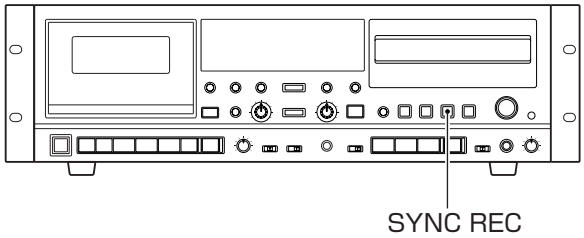
CD、MDの場合
トラック開始情報を検出し、なおかつ信号のレベルがサウンドレベルよりも高くなると開始します。



上記以外のデジタルソース、およびアナログソースの場合
信号のレベルがサウンドレベルよりも高くなると開始します。



- レコードをダビングする場合はシンク録音をオフにすることをお勧めします。レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、適切にシンク録音機能が働かないことがあります。



1 SYNC RECキーを押してモードを選択します。

押すたびに"SYNC ALL"→"SYNC 1"→"SYNC OFF"の順に表示されます。

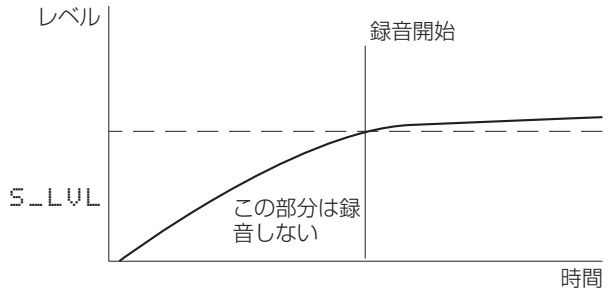
2 RECORDキーを押して録音待機状態にします。

3 録音するソースを再生します。

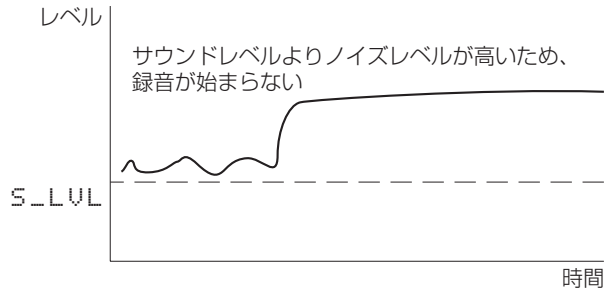
自動的に録音が始まります。ソースの再生が終わると自動的に停止します。

- 録音レベルの調整はシンク録音モードにする前に行なってください。シンク録音モードにし、録音待機状態にしてからでは、レベル調整のためにソースを再生すると、そこから録音が始まってしまいます。
- SYNC RECキーは録音待機状態にする前に押してください。録音待機状態にしてからではSYNC RECキーは無効になります。
- シンク録音待機中に本機のPLAYキーまたはPAUSEキーを押して録音を開始することはできません。
- シンク録音中にPAUSEキーで録音を一時停止することはできません。
- シンク録音中にRECORDキーを押して曲番を追加しても、シンク録音は解除されません。
- SYNC ALLに設定すると自動的にオートトラックがオンになります。

サウンドレベルを高めに設定すると、小さい音から始まる曲の始めの部分が欠けてしまうことがあります。



反対に、サウンドレベルを低めに設定すると、アナログソースなどのノイズレベルがサウンドレベルより高くなってしまうことがあります。この場合はシンク録音が働きません（録音が始まりません）。



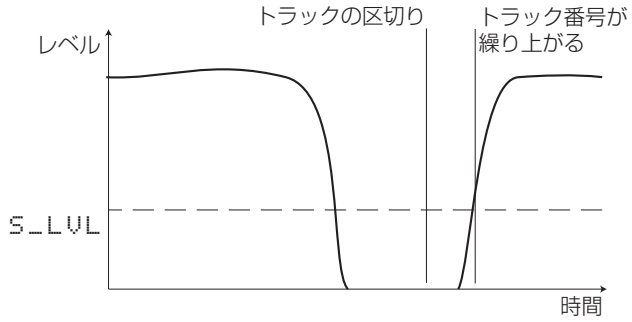
オートトラック（自動トラック番号）

メニューの“A_TRACK”をオンにすると、設定したサウンドレベル（23ページ）に従って、録音中自動的にトラック番号を付けることができます。

トラック番号が自動的に繰り上がるのは、以下の場合です。

CD, DAT, MD からのデジタル入力の場合

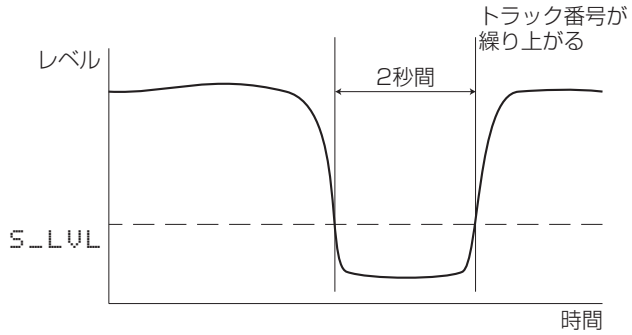
- トラックの区切りを検出し、かつ設定したサウンドレベル以上の音が入ってきたとき



または

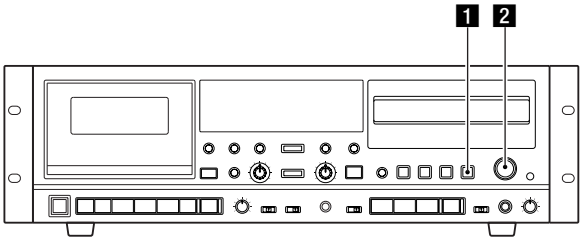
アナログソースの場合、上記以外のデジタル入力の場合

- 無音状態が２秒以上続いた後、設定したサウンドレベル以上の音が入ってきたとき



- レコードをダビングする場合は、オートトラックをオフにすることをお勧めします。レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、適切にオートトラック機能が働かないことがあります。

オートトラックの設定



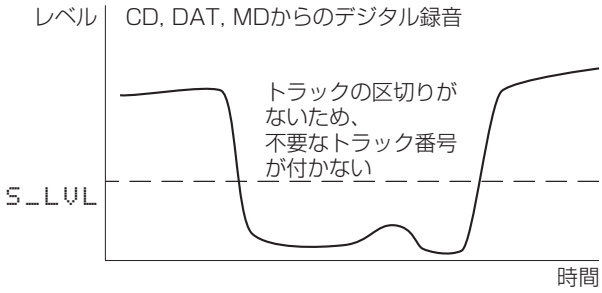
1 MENUキーを押して“A_TRACK> XXX”を表示します。

2 MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使って、“ON”または“OFF”を選択します。

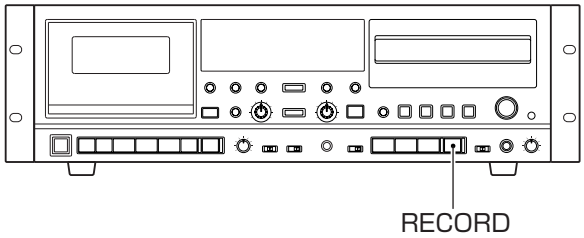
“ON”にするとディスプレイの［A-TRACK］が点灯します。

- 録音中はオートトラックのオン／オフを切り換えられません。
- 例えば、クラシック音楽をアナログ入力で録音する場合などは、無音部分を検出してトラック番号を付けているため、不要なトラックができてしまうことがあります。このような場合はマニュアルでトラック番号を付けることをお薦めします。

  CD, DAT, MDからのデジタル入力の場合は、トラックの区切りとサウンドレベルでトラック番号を付けるため、このような問題はありません。
  大きい音の部分や小さい音の部分が曲中にあっても、トラックの区切りを検出しないため、不要なトラック番号は付きません。



マニュアルでトラック番号を付ける

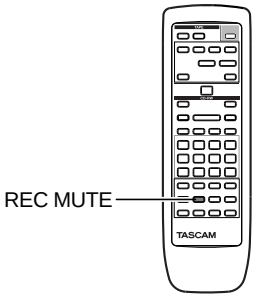


オートトラックメニュー（“A_TRACK> XXX”）の設定に関わらず、録音中にRECORDキーを押すと、新しくトラック番号を付けることができます。

- PHONOキーを使った録音では、手動でトラックをインクリメントできません。手動でトラックをインクリメントしたい場合は、通常の録音（→18ページ）を行なってください。

レックミュート

無音録音部分を簡単につくることができます。



録音中にリモコンのREC MUTEキーを押します。
ディスプレイに“REC MUTE”を表示して無音録音が始まります。
約４秒後に録音一時停止状態になります。

- レックミュート機能はリモコンからのみ操作できます。

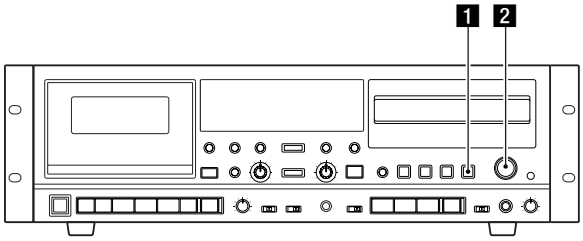
フェードイン／アウト

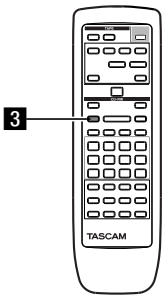
FADERキーを押すことにより、

無音～設定した入力レベルまでのフェードイン

現在のレベル～無音までフェードアウト

ができます。
また、フェードイン／アウトの時間をそれぞれ個別に設定することもできます。





1 MENUキーを押して“FADE IN(OUT)> XXX”を表示します。

2 MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを押して、値を選択します。

フェードイン／アウトともに選択できる値は１秒～24秒（1秒単位）です。

3 フェードイン／アウトするときは、録音一時停止または録音状態でFADERキーを押します。フェードイン中は“FADE IN”、フェードアウト中は“FADE OUT”をディスプレイに表示します。

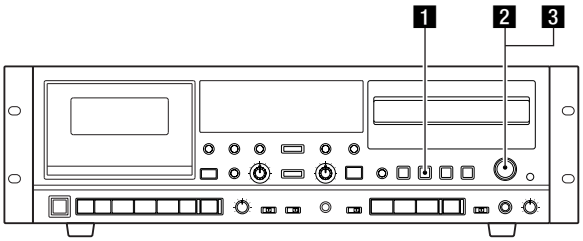
- シンク録音中、またはオートトラックがオンのときは、フェードイン／フェードアウトはできません。

消去

CD-RWに録音したトラックは消去することができます。
消去できるのは、

ディスク全体
または
指定したトラックから最後のトラックまで
です。

- ファイナライズ済みのCD-RWを消去するには、まずいったんアンファイナライズしてください。



○ ディスクを正しくセットします。

1 停止時にERASEキーを押します。

2 MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使って、ディスプレイに以下を表示します。

ディスク全体を消去する場合は：
→ "ERASE DISC ?"

指定したトラックから最後のトラックまでを消去する場合は：
→ "ERASE XX – XX ?"

中止したいときは、STOPキーを押します。

3 MULTI DIALまたはリモコンのENTERキーを押すと、ディスプレイに"ERASE X:XX"を表示して消去が始まります。

消去が終了すると"Complete"を表示します。

- CD-Rへの録音は消去できません。
- 消去中は操作キーを受け付けません。

ご注意

消去中に電源を切らないでください。
録音内容が消えるばかりではなく、ディスクが使えなくなる恐れがあります。

ディスクリフレッシュ

ファイナライズ中に停電があったディスクやコンピュータで使用したディスクは本機では認識できないことがあります。このような場合はディスクをリフレッシュします。

- ファイナライズ済みのCD-RWをディスクリフレッシュするには、まずいったんアンファイナライズしてください。
- 正常なCD-RWディスクでディスクリフレッシュを行なっても、記録品質が向上するということはありません。

○ ディスクを正しくセットします。

1 停止時にERASEキーを押します。

2 MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使って、ディスプレイに"DISC REFRESH"を表示させます。

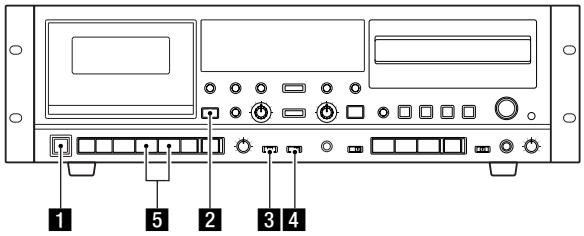
3 MULTI DIALまたはリモコンのENTERキーを押すと、ディスプレイに"ERASE X:XX"を表示してディスクリフレッシュが始まります。

ディスクリフレッシュが終了すると"Complete"を表示します。

- ディスクリフレッシュには約40分かかります。残り時間表示は予測ですので、表示された時間どおりに終わらないことがあります。

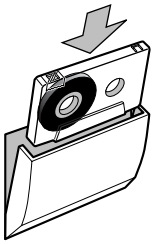
カセットの録音／再生

基本的な再生



1 POWERキーを押して電源を入れます。

2 EJECTキーを押してカセットホルダーを開き、カセットを装着します。



A面を手前にし、テープの見える方を下向きにしてカセットを入れ、ホルダーを手で押して閉めます。

3 リバースモードを選びます。

REV MODEスイッチを使って設定します。

：A面とB面を連続再生

：A面とB面の両面再生

：A面またはB面の片面再生

4 ドルビーのオン／オフを選びます。

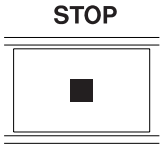
ドルビー（B タイプ）録音したテープを再生するときには、DOLBY NR スイッチをON にします。

5 PLAYキーを押します。

A面を再生する場合は►キーを、B面を再生する場合は◄キーを押します。

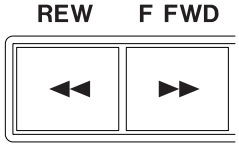
再生を止めるには

STOPキーを押します。



早送り／巻戻しをするには

停止中または一時停止中にFFWD（►►）／REW（◄◄）キーを押します。

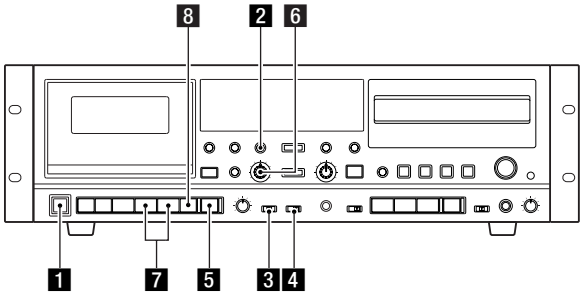


テープとCDの連続再生

CD-TAPE CONT PLAYキー（リモコンの場合はCONT PLAYキー）を押してから、CDレコーダーまたはカセットレコーダーのPLAYキーを押すと、テープとCDの連続再生を行なうことができます。

詳しくは「CDとテープの連続再生」（16ページ）をご覧ください。

基本的な録音



1 電源を入れ、カセットテープを挿入します。

カセットテープの誤消去防止用のツメが折れていないことを確認します。折れている場合はセロハンテープなどで塞いでください。

2 INPUT 2 SELキーを押して録音ソース（LINE2またはDISC）を選びます。

DISCを選択すると、本機のCDレコーダー出力がソースになります。

LINE2を選択すると、リアパネルのLINE 2端子の入力信号がソースになります。

- PHONO端子の入力信号を録音することもできます。その場合の操作については「アナログレコードをテープにダビング」（27ページ）をご覧ください。
- CD（ディスク）を録音する場合、ダビング機能を使うと便利です。その場合の操作については「CDをテープにダビング」（30ページ）をご覧ください。

3 リバースモードを選びます。

：A面とB面の両面を録音

：A面またはB面の片面録音

4 ドルビーのオン／オフを選びます。

ドルビー（B タイプ）を入れて録音したいときには、DOLBY NR スイッチをON にします。

5 カセットレコーダー用のRECORDキー（リモコンの場合はRECキー）を押します。
録音待機状態になり、ディスプレイ上ではメーターが入力レベルを表示し、［REC］が点灯します。
またLINE OUTPUTS 2端子から録音ソースの音が出力されます。なおMONITORスイッチをMIXまたはTAPEに設定するとPHONES端子からも出力されます。

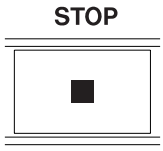
6 録音レベルを設定します。
録音ソースを再生し、メーターを見ながら最適レベルになるように、カセットレコーダー用のINPUTつまみを使って調節します。
一番レベルの高いときのメーターの指示が、ノーマルテープ、ハイポジションテープでは、0dBぐらいになるように設定します。

7 テープ走行方向を確認／選択します。
ディスプレイのリバース／フォワード表示（◄／►）が、現在のテープ走行方向を示しています。逆の方向に録音したい場合は、録音方向のPLAYキーを押すとテープ走行方向が変わります。

8 PLAYキーまたはPAUSEキーを押して録音を開始します。

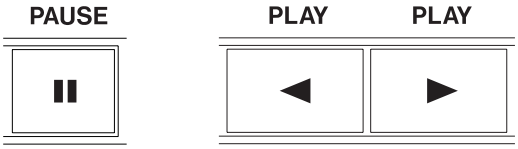
録音を止めるには

STOPキーを押します。



録音を一時停止するには

PAUSEキーを押します。この状態から録音を再開するにはPAUSEキーまたはPLAYキーを押します。

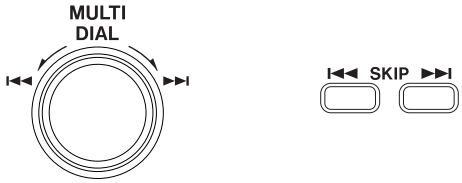


アナログレコードをテープにダビング

外部のアナログレコードプレーヤーを本機のPHONO端子に接続することにより、アナログレコードをダビングすることができます。

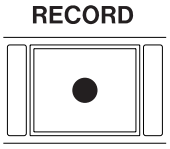
1. 上記のように録音の準備をします（テープをセット、リバースモードを設定、ドルビーを設定など）。
2. MENUキーを押して“PHONO>xxxx”を表示します。

3. MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使って、PHONO>TAPEを選択します。



4. MULTI DIALまたはリモコンのENTERキーを押します。

5. テープのA面の頭から録音する場合はそのままカセットレコーダーを停止状態にします。テープを巻き戻す必要はありません。途中から録音する場合はその位置にロケートしてからRECORDキー（リモコンの場合はRECキー）を押して、録音待機状態にします。



6. PHONOキーを押します。

ディスプレイにPHONOが点灯します。

テープが停止中の場合、自動的にテープがA面の頭まで巻き戻され、リーダーテープ部分を避けるため約8秒送られた後、録音待機状態になります。録音待機状態の場合はそのままです。

7. レコードを再生すると同時に、カセットレコーダーのPLAYキーまたはPAUSEキーを押して録音を開始します。

録音を止めるには

STOPキーを押します。
録音を止めるとディスプレイのPHONOが消灯します。

メモ

- PHONOソースを録音中はSTOPキー以外のキーを受け付けません。
- ディスプレイにPHONOが点灯時のみ、PHONO入力が録音ソースになり、消灯中はINPUT 2 SELキーで選択した信号が録音ソースになります。

その他の機能

曲間に無音スペースを作る［ミュート］

録音中にREC MUTEキーを押すと、約４秒間の無信号録音が行なわれた後、一時停止します。録音を再開するにはPLAYキーまたはPAUSEキーを押します。

４秒以上のスペースをつくるにはREC MUTEキーを４秒以上押し続けます。４ 秒以上押し続けて指を離したときに一時停止状態になります。

テープカウンター

テープが左から右に走行するとカウンター値が増え、右から左に走行するとカウンター値が減ります。

RESETキーを押すと0000にカウンター値がリセットされます。

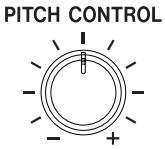
RTZキー（Return-to-zeroキー）を押すと0000位置にロケートします。

メモ

カウンター値9995～0005の範囲内ではRTZ機能が働きません。

ピッチコントロール

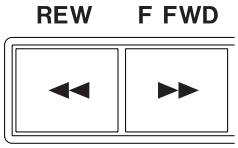
本機のカセットレコーダーには再生時に働くピッチコントロール機能がついています。



PITCH CONTROLつまみがセンター位置（クリックがある位置）のときは標準ピッチです。右に回すとスピードが速くなり、左に回すと遅くなります（± 12％の範囲）。

サーチ機能（CPS）

再生中にREW（◀◀）／FFWD（▶▶）キーを押すことにより、曲をサーチすることができます（CPS 機能）。
CPS とはComputer-controlled Program Searchの略です。



▶▶ キーを押すと、次の曲の頭を探してそこから再生が始まります。ディスプレイに“CP 01”が表示されます。
押す回数によって任意の曲を選ぶことができます。

◀◀ キーを押すと、曲の途中であれば現在の曲の頭を探し、曲の頭であれば手前の曲を探します。ディスプレイに“CP -01”を表示します。
押す回数によって任意の曲を選ぶことができます。

- 上記はフォワード再生時の説明です。リバース再生時は ◀◀ キーが次の曲を探し、▶▶ キーが前の曲を探します。

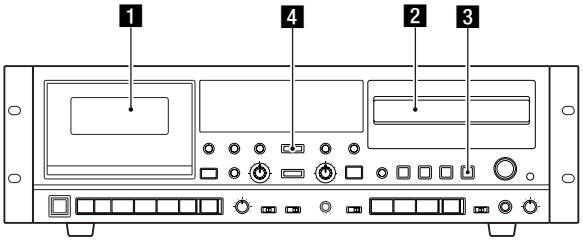
メモ

- 停止中または一時停止中は、これらのキーは早送り／巻戻しキーとして機能します。
- ▶▶ キーまたは ◀◀ キーを多く押しすぎた場合、逆方向のキーを押すことにより戻すことができます。
- 本機能では４秒以上の無音部分を検出するとトラックの変わり目と見なします。したがってトラック間の無音部分が４秒以下の場合は同一トラックと見なしてしまいます。また逆にトラックの中に静かなパートが４秒以上続く場合、別のトラックとして認識することがあります。

本機にセットしたCDとカセット間のダビング（CD → カセット、あるいはカセット → CD）を行なうとき、DUB（1、2）キーを使ったダビング機能を使うと便利です。

テープをCDにダビング

簡単にダビングするには

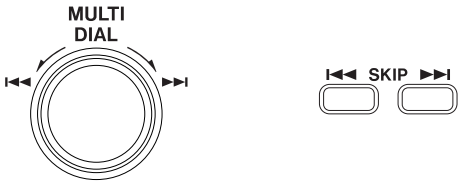


1 カセットテープをセットします。
最初に再生する面を表側にしてセットします。
またドルビーの設定、リバースモードの設定などを行ないます。

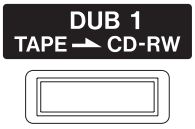
2 録音可能なディスクをセットします。

3 MENUキーを押してDUB>VOLを表示します。設定がTHRU（初期設定）であることを確認します。

THRUが選択されていない場合は、MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使ってTHRUに切り換えます。



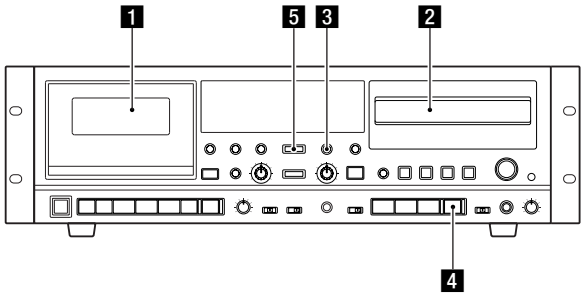
4 DUB 1キーを押します。ダビングが始まります。



ディスクの録音可能時間に達するか、あるいはテープが停止すると、テープとディスクの両方が停止してダビングが終了します。

- リバースモードを両面再生にしてダビングする場合、テープエンド（リーダーテープ部）やリバース時のノイズにより、トラックがインクリメントされることがあります。なお、この場合も録音は正常に行なわれています。
- 同じくリバースモードを両面再生にしてダビングする場合、リバース時にクリックが録音されることがあります。
- テープの先頭からダビングを始めると、リーダーテープ部がCDでは無音部分になります。

録音レベルを調整してダビングするには



1 カセットテープをセットします。
最初に再生する面を表側にしてセットします。
テープを巻き戻す必要はありません。ダビング開始時に自動的にA面の頭まで巻き戻されます。
またドルビーの設定、リバースモードの設定などを行ないます。

2 録音可能なディスクをセットします。

3 INPUT 1 SELキーを押してTAPEを表示します。
テープが録音ソースになります。

4 CDのRECORDキーを押し、録音レベルを調節します。
[→ 26ページ「基本的な録音」]
メニューのDUB>VOL項目をTHRUに設定すると、ダビング時にINPUTつまみをバイパスして、適正なレベルで録音します。[→ 31ページ「ダビング時にINPUTつまみを無効にする」]
- オートトラックがオンの場合、サウンドレベルは自動的に－30dB固定になります。

5 テープとCDが停止していることを確認し、DUB 1キーを押します。
自動的にA面の頭までテープが巻き戻され、再生を始めます（DUBインジケーター点滅）。

ディスクの録音可能時間に達するか、あるいはテープが停止すると、テープとディスクの両方が停止してダビングが終了します。

ダビングを途中でやめるには

カセットレコーダーまたはCDレコーダーのSTOPキーを押します。

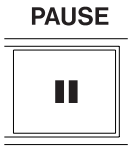
メモ

以下の場合にダビングが実行できません。

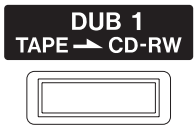
- 録音可能なディスクがセットされていない。
- テープがセットされていない。
- カセットおよびCDが停止していない。

テープの途中からCDにダビングするには

1. テープを希望の再生開始位置にロケートしてから、カセットレコーダーのPAUSEキーを押します。



2. DUB 1キーを押します。



テープが再生を始めると同時にCDが録音を開始します。

CDをテープにダビング

本機にセットしたCDをワンタッチでカセットにダビングすることができます。

準備

1. CD をセットします。

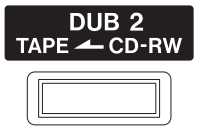
   ダビングの際もCDのプログラム再生モード、ランダム再生モード、シングル再生モード、リピート再生（A-Bリピート以外）などの機能が使えますので、必要に応じて設定を行なってください。特に設定をしなければ1 曲目から順にダビングを行ないます。

2. カセットをセットします。
3. 通常はメニューのDUB>VOL項目をTHRUに設定します。
   これによりダビング時にINPUTつまみをバイパスして、本機内部で適正な録音レベルに自動設定されます。
   [→ 31ページ「ダビング時にINPUTつまみを無効にする」]

- INPUT 1 SELキーでソースを選択する必要はありません。
- 録音レベルを手動で調節したい場合は、メニューのDUB>VOL項目をONに設定し、「基本的な録音」（26ページ）で述べた方法で調節します。

テープのA面の頭から録音するには

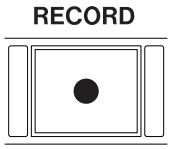
1. 停止中にDUB 2キーを押します。



自動的にA面の頭までテープが巻き戻され、テープカウンターが"0000"にリセットされます。CD は最初の曲の頭で一時停止して待機します。次にカセットは約8秒の無信号録音を行なった後(リーダーテープ部分を避けるため)、CD の演奏と同時に録音モードになり、ダビングを開始します（DUBインジケーター点灯)。

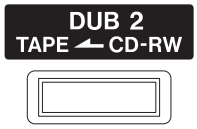
テープの途中から録音するには

1. 録音したい位置までテープを送ります。
2. RECORDキー（リモコンの場合はRECキー）を押して録音一時停止状態にします。



ディスプレイに［REC］と［❚❚］が点灯します。

3. DUB 2キーを押します。

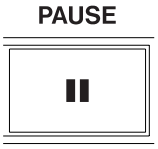


録音方向設定に従って、その位置からダビングを開始します。

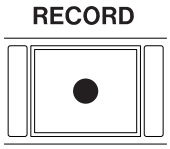
- CD再生が終わるか、テープエンドに来てテープが停止（どちら面のエンドで停止するかはリバースモードによります）すると、ダビングが終了します。
- 両面録音モードでダビング中、録音開始時の面の最後に録音される曲が終わらないうちに走行方向が反転した場合、その曲は新たに冒頭から録音されます。
- 両面録音モードでダビング中、走行方向が反転後8秒間は録音を行ないません（カセットレコーダーは録音モードですがCDレコーダーが再生を一時停止します)。

CDの途中からテープにダビングするには

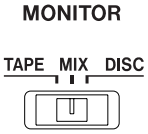
1. CDの希望のトラックを選択してPAUSEキーを押します。



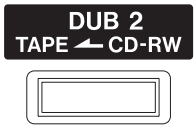
2. テープのA面の頭から録音する場合はカセットレコーダーを停止します。途中から録音する場合はその位置にロケートしてからRECORDキー（リモコンの場合はRECキー）を押して、録音待機状態にします。



上記操作を行なうとき、MONITORスイッチをMIXに設定してヘッドホンでモニターすると、カセットとCDの両方の音が聞こえるので便利です。



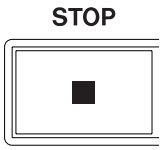
3. DUB 2キーを押します。



ダビングが始まります。
（ただしカセットがA面の頭以外の位置で停止中の場合はA面の頭にロケートしてからダビングが始まります。）

ダビングを途中でやめるには

カセットレコーダーまたはCDレコーダーのSTOPキーを押します。



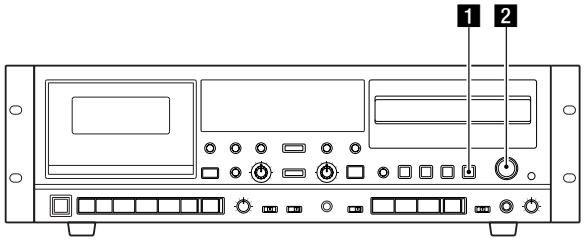
メモ

以下の場合にダビングができません。

- CDがセットされていない。
- テープがセットされていない。あるいは誤消去防止用のツメが折れている。
- レコーダブルCDに何も録音されていない。
- カセットレコーダーが停止または録音待機状態になっていない。
- CDが停止や一時停止以外のモードになっている。

ダビング時にINPUTつまみを無効にする

本機のダビング機能を使ってCDとカセット間のダビングを行なう場合、INPUTつまみに関係なく録音レベルを自動設定することができます。



1 MENUキーを押してDUB>VOLを表示します。

2 MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使ってTHRUを選択します。

ONを選択するとダビング時にもINPUTつまみが働きます。

メモ

- この設定は、DUB（1、2）キーを使ったCDとカセット間のダビング時にのみ有効です。
- ダビング中にこのメニュー設定を見る（確認する）ことはできません。

メッセージ一覧

エラーメッセージ

エラーメッセージが表示されたときは、STOPキーを押してから原因を取り除いてください。それでも改善しない場合は、お近くの当社サービス機関にご相談ください。

Cannot Rec !
録音できません。
➡ ディスクを交換してください。

Disc Error !
ディスクに何らかの問題があります。
➡ ディスクを交換してください。

Disc Full !!
トラック数または録音時間が限界に達したため録音を停止します。

Drive Error!
CD-RWドライブに問題があります。

D-IN UNLOCK!
デジタル入力を接続していません。
➡ デジタル入力を接続してください。
接続したデジタル機器の電源がオフです。
➡ 電源を入れてください。

Erase Error!
消去中にエラーが発生しました。

PGM Full !
既に25曲プログラムされています。

Rec Error!
録音中にエラーが発生しました。
➡ 録音をやり直してください。

System Err!
システムエラーです。

- Rec Error、Erase Error、Disc Error が発生したときは、自動的にトレーが開きます。この場合は、ディスクに異常がないかを確認の上、電源を入れ直し、再度操作してみてください。

動作時のメッセージ

Complete
ファイナライズまたは消去などが完了しました。

Now OPC
最適な状態で録音するために、使用ディスクの特性に合わせてキャリブレーションしています。
（OPC = Optimum Power Control）

PMA Writing
録音した内容をディスクに記録しています。
（PMA = Program Memory Area）

TOC Reading
TOC情報を読み取り中です。

トラブルシューティング

A-Bリピートが解除できない
再生一時停止中はA-Bリピートが解除できません。

A-Bリピート中に音が途切れる
トラックをまたいでA-Bリピートを行なうと、トラックの変わり目で一瞬音が途切れることがあります。

AUTO SPACE中に再生一時停止状態になる
オートスペース実行中（無音部分挿入中）にもう一度AUTO SPACEキーを押すと、再生一時停止状態になります。

フェードイン／フェードアウトができない
シンク録音中、またはオートトラックがオンのときはフェードイン／フェードアウトはできません。

A-Bリピートが設定できない
ファイナライズしてないCD-R／CD-RWディスクではA-Bリピートはできません。

CD レコーダー部

記録ディスク：	CD-R, CD-R-DA, CD-RW, CD-RW-DA
量子化ビット数：	16 bit リニア
サンプリング周波数：	44.1kHz
再生周波数特性：	20～20kHz ± 1.0dB（再生時） ＋ 1.0dB, － 1.5dB（記録時）
S/N 比：	92dB 以上（再生時） 88dB 以上（記録時）
ダイナミックレンジ：	92dB 以上（再生時） 88dB 以上（記録時）
歪率：	0.008％以下（再生時） 0.01％以下（記録時）
チャンネルセパレーション：	80dB（再生時　1 kHz） 75dB（記録時　1 kHz）
ワウフラッター：	測定限界以下（0.001％以下）

アナログ入力

LINE INPUTS 1 ：	RCA ピン
基準入力レベル：	－ 10dBV（6dBV － 16dB）
最大入力レベル：	＋ 6dBV
入力インピーダンス：	50k Ω

アナログ出力

LINE OUTPUTS 1 ：	RCA ピン
基準出力レベル：	－ 10 dBV（FS － 16 dB）
最大出力レベル：	＋ 6 dBV
出力インピーダンス：	1k Ω

デジタル入力

対応サンプリングレート	32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz
COAXIAL ：	RCA ピン IEC-60958 Type II
OPTICAL ：	TOSLINK IEC-60958 Type II

デジタル出力

COAXIAL ：	RCA ピン IEC-60958 Type II
OPTICAL ：	TOSLINK IEC-60958 Type II

カセットレコーダー部

トラック方式：	4 トラック 2 チャンネルステレオ
ヘッド構成：	録音／再生ヘッド × 1 （回転リバース式） 消去ヘッド × 1
使用テープ：	C ‐ 60C ‐ 90 タイプカセットテープ（メタルテープは再生のみ）
テープ速度：	4,76cm/sec
モーター：	DC サーボモーター × 1
ワウ・フラッター：	0.19%(W.RMS)
周波数特性（総合）：	
ノーマル：	50 ～ 10kHz ± 3dB
ハイポジション：	50 ～ 12.5kHz ± 3dB
S/N 比：	46dB （ドルビー OFF） 52dB （ドルビー ON）
早巻時間：	約 120 秒（C ‐ 60 テープ）

入力

LINE INPUTS 2 ：	RCA ピン
基準入力レベル：	0.28V （－ 11dBV）
入力インピーダンス：	50k Ω （入力インピーダンス 50k Ω以上）

出力

LINE OUTPUTS 2 ：	RCA ピン
基準出力レベル：	0.46V （－ 6.7dBV）
負荷インピーダンス：	50k Ω

PHONO アンプ部

MM カートリッジ

入力感度：	5.6mV
入力インピーダンス	47k Ω
S/N 比：	60dB

ヘッドホン出力：	6 φステレオ 10mW ＋ 10mW 32 Ω負荷

一般

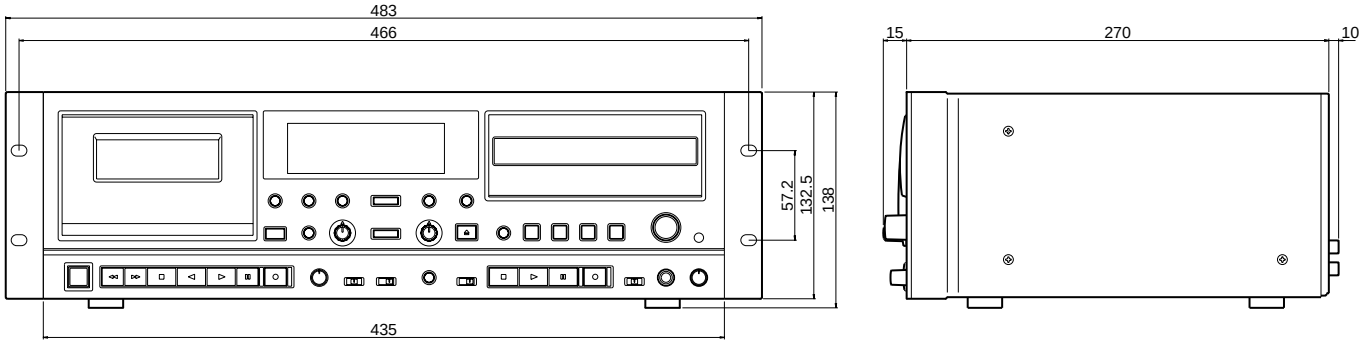
電源：	100 VAC, 50 － 60 Hz
消費電力：	26 W
外形寸法：	483W × 138H × 295D (mm)
質量：	7.4 kg

＊仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。

＊ドルビーノイズリダクションは、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

＊ドルビー、DOLBY 及び（DD）はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

寸法図



この製品のお取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

タスカム営業技術　〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

電話：0422-52-5106 / FAX：0422-52-6784

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:00～17:00です。

ティアック修理センター　〒190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-7

市内通話料でOK ナビダイヤル

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3
http://www.teac.co.jp/tascam/

Printed in China